

辻外務副大臣の核セキュリティに関するIAEA国際会議（ICONS）閣僚会合出席

令和6年（2024年）5月 外務省軍科部

1. 概要・主な出席者（参加国）

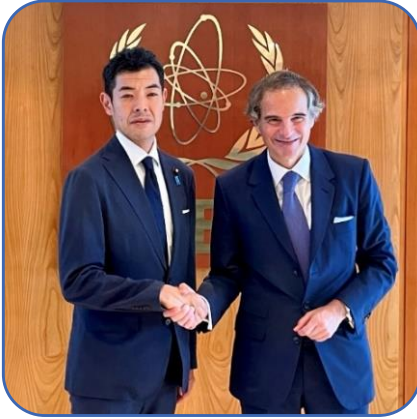
- 5/20（月）、ウィーンにて、国際原子力機関（IAEA）が開催。今回は第4回目（約4年ごとの開催）。共同議長は豪・カザフスタン。
- 米国（ターク・エネルギー副長官）、英国（ボーウィ原子力・再生可能エネルギー担当大臣）、仏国（ジャック原子力代替エネルギー庁長官）、中国（黄平中国国家原子能機構事務総長）、韓国（カン・インサン外交部第二次官）の他、伊、ロシア、ウクライナ、ブラジル、インド、イラン等参加。参加国は100ヶ国以上。
- 日本から政府代表として辻外務副大臣が出席し、演説を行った。
- ICONS2024「未来を形作る」共同議長声明を採択（別紙参照）。閣僚宣言案はコンセンサスに至らなかったため採択されず、共同議長声明が発表された（概要は別紙参考）。



2. 辻副大臣演説概要

- 各国におけるエネルギー需要の増大や脱炭素の世界的潮流の中で、原子力発電への国際社会の関心が高まる中、原子力の平和的利用を進める各国は、非国家主体への核兵器や核物質の拡散リスクといった核セキュリティに対する認識を向上させ、最高水準の核セキュリティの確保に向けて取り組んでいく必要がある。
- ロシアによるウクライナ侵略について、IAEA事務局長による「原子力施設の安全及び核セキュリティに関する7つの柱」が損なわれるべきではなく、また、ウクライナと共にあるとの我が国の立場は不変である。
- 最高水準の核セキュリティの確保に向けて、日本は、核物質防護条約及びその改正の普遍化を支持するとともに、実際の現場における取組を進めてきた。
- 我が国は、グロッシ事務局長のリーダーシップの下、様々な活動を展開するIAEA、そして各国と連携しつつ、国際社会における最高水準の核セキュリティの確保に向けて、引き続き貢献していく。

辻副大臣のICONS閣僚会合出席（バイ会談等①）



IAEA グロッシー事務局長

- 辻副大臣から、気候変動対策との関係でも原子力の平和的利用は不可欠であり、特にエネルギーの需要は拡大しつつありIAEAの役割は重要であること、また、ALPS処理水の海洋放出に対するIAEAレビューを含め、3月の事務局長訪日での議論・成果をしっかりとフォローしつつ、引き続き幅広い分野においてIAEAと協力していきたい旨述べた。
- グロッシー事務局長から、ALPS処理水海洋放出については引き続き独立した国際機関の立場から関与を続けていく考えであること、またウクライナやアフリカなどで進めるIAEAの取組への日本の関与・貢献を期待する旨述べた。



米国 ターク・エネルギー副長官

- 辻副大臣から、我が国は経済安保、そしてGX実現の観点からも原子力の活用を推進しており、エネルギーとしての原子力政策推進には一貫した外交・安全保障政策が不可欠であること、また気候変動対策との関係で、日米が更にこの分野で技術面・人材育成面等で協力を深化させることを期待する旨述べた。
- ターク副長官は、日米は様々な分野で緊密に協力できる、特にクリーンエネルギー推進の観点で日米は長年協力してきており、原子力エネルギー推進の観点でも日米間が科学に基づき協力を更に深化させていくことができると述べた。



英国 ボーウィ大臣（原子力・再エネ担当）

- 辻副大臣から、英国のCPTPPへの加入やGCAPの政府間機関の設立に関する条約の署名等を通じた多分野における日英間の取組を歓迎し、COP28で署名された「原子力3倍宣言」を踏まえた気候変動対策の観点からも原子力を含むエネルギー政策において両国で連携していきたい旨述べた。
- ボーウィ大臣は、経済成長と脱炭素は両立し得るものであり、原子力の利点を発信することが重要である、日英間での協議を定期的に行い連携していきたいと述べた。

辻副大臣のICONS閣僚会合出席（バイ会談等②）



フランス ジャック原子力代替エネルギー庁長官

- 辻副大臣から、昨年日仏両国首脳が、「特別なパートナーシップ」の下での日仏協力のロードマップに基づき、民生用原子力分野における協力強化を発表したことを歓迎しつつ、先月、第12回会合が開催された原子力エネルギーに関する日仏委員会などを通じ、この分野における日仏協力が継続的に発展することを期待する旨述べた。
- ジャック長官は、副大臣から言及のあった日仏委員会を自身が議長として開催できたことは大変喜ばしいこと、マクロン大統領も述べているとおり、カーボンニュートラル実現のために原子力の果たす役割は大きいことを述べた。また福島第一原発事故後の日本の取組を賞賛すると述べた。



スウェーデン ヴェストレン気候・環境副大臣

- 辻副大臣から、本年1月の上川大臣によるスウェーデン訪問に言及しつつ、「日本の北欧外交イニシアティブ」推進のため、特にエネルギー分野を含む経済面でも、日・スウェーデンの協力拡大を期待する旨述べた。
- ヴェストレン副大臣は、自身も原子力の専門家として原子力推進に向けた国内外の議論の推移を注視していること、また医療面含め原子力の平和的利用を様々な形で推進していくべく、日スウェーデンで連携していきたい旨述べた。



カザフスタン エシムカノフ・エネルギー副大臣

- 辻副大臣から、まずは今回のICONS閣僚会合共同議長としてのカザフスタンの取組に感謝・賞賛を述べつつ、中央アジア地域の安定と繁栄に主導的な役割を果たすカザフスタンとの戦略的パートナーシップに基づき、二国間関係を強化させていきたいこと、また、原子力の平和的利用推進のため、両国間の協力拡大を期待する旨述べた。
- エシムカノフ副大臣は、ICONS共同議長声明への日本からの支持に感謝すると述べつつ、原子力、医療、資源等様々な分野において両国間は更に協力を深化させることができ、引き続き緊密に意思疎通したい旨述べた。

(参考) ICONS2024「未来を形作る」 共同議長声明の概要

以下概要のICONS2024「未来を形作る」共同議長声明を発表。（※主語はすべて「我々」= 共同議長。）

- 核セキュリティに関する国際会議「未来を形作る」に集い、全ての核物質・放射性物質、また関連施設の効果的かつ包括的な核セキュリティを維持・強化するとのコミットメントを改めて表明する。
- 核セキュリティ対策が原子力の平和的利用への公共の信頼を高め得ることを認める。また、原子力が加盟国の持続可能な発展に寄与することを認め、核セキュリティ強化の措置が原子力の平和的利用における国際協力を妨げないことを確保すべき。核不拡散、核軍縮、原子力の平和的利用という共通の目標を再確認。
- ガイダンス作成、助言提供、キャパビル等を通じ、加盟国が効果的に持続可能な核セキュリティ体制を確立し、責任を果たすことを支援するIAEAの役割を支持。
- 各国の核セキュリティ体制における強靱性及び緊急事態を含め、あらゆる状況における緊急時への備えを確保する必要性を認識。IAEA事務局長の「武力紛争時の原子力安全及び核セキュリティに不可欠な7つの柱」を想起する。
- 小型モジュール炉（SMR）を含む先進的な原子力技術と原子炉について、その開発及び配備に対する関心が高まっている中で、この点における核セキュリティへの配慮の重要性を強調する。
- 改正核物質防護条約の締約国による、（改正）条約の普遍化と履行促進継続の重要性を再確認する。
- 核物質その他放射性物質の不正取引と闘うこと、また、それらの物質が非国家主体によって悪意ある目的のために使用され得ないことを確保することへのコミットメントを改めて表明する。
- 加盟国に対し、任意に、IAEAの核セキュリティに関する助言の提供及びレビューミッションを利用し、これらに貢献することを奨励する。加盟国に対し、機微な情報及び秘密の情報の保全を十分に考慮した上で、適当な場合には、専門家の派遣、自国の知見、ベストプラクティス及び得られた教訓の共有並びに最近の成功例の強調によって、IAEAの核セキュリティ活動を支援し、これに貢献するよう求める。
- 核セキュリティ基金が核セキュリティの分野におけるIAEAの活動にとって重要な手段であると認識する。IAEAが核セキュリティにおける活動を実施し、要請に基づき加盟国に必要な支援を提供するため適当な場合には、任意に、核セキュリティ基金への資金、並びに技術的及び人的資源を引き続き提供する。
- IAEA事務局及び加盟国に、IAEAの2026年から29年までの核セキュリティ計画の作成に際する事務局と加盟国との間の協議の過程でこの閣僚宣言を考慮に入れることを求める。IAEAに対し、核セキュリティに関する国際会議を引き続き4年毎に行うことを求め、全ての加盟国に対し、閣僚レベルで参加するよう奨励する。